



編集委員長に就任して

九州大学大学院工学研究院 今任 稔彦

昨年度より編集委員長の酒井忠雄先生のもとで1年間共編集委員長として編集のやり方を教わりながら、本年の1月より実質的な編集委員長をさせていただくことになりました。ここに、編集委員長就任にあたり、この紙面を借りてご挨拶申し上げます。

振り返りますと、創刊間のない1986年3巻1号より1991年の8巻2号まで与座範政先生とご一緒に編集業務に携わって参りましたので、再登板ということになりますが、編集委員長としての仕事は、これが初めてということになります。これまで発行されました21巻1号までの会誌を見ますと、歴代の編集委員長には、1992年9巻1号から1995年12巻2号まで和田弘子先生が、1996年13巻1号から1997年14巻2号まで河島拓治先生が、そして1998年15巻1号から本号まで酒井忠雄先生が務められました。この間、滞ることなく充実した会誌が発行され、これも歴代編集委員長の方々のご尽力の賜物と存じます。特に、酒井先生が編集委員長をお務めの間には、会誌に新しい息吹を吹き込まれました。従来のB5版からA4版化が行われるとともに、長年FIA研究やFIA装置の開発をリードしてこられた先駆者の先生方、企業の方にご執筆いただくパーソナルレビュー欄や、FIAのいろいろな分野において易しく説いた解説欄、研究者ご自身の研究を英文

でまとめたミニレビュー欄などを新設になりました。また、積極的に外国のFIA研究者をアドバイザーボードに迎えられ、本会誌の巻頭言などの執筆を依頼されました。ICFIAやフローアナリシス国際会議においても外国の研究者との交流を深められ、外国から本会誌への研究論文の投稿を促進されました。Journal of Flow Injection Analysisの雑誌名にふさわしい、国際的なジャーナルになってまいりました。

本研究懇談会には、FIAの分析法としての基礎理論から応用などの研究をしている研究者の方、FIA法を一つの分析法として利用するユーザーの方、あるいはFIAの装置を開発する方など、多くの分野の方々协会会员として所属されています。従いまして、この研究懇談会会誌は会員の皆様方のための会誌でありますので、皆様が役に立つ会誌、情報が交換できるような有意義な会誌でなければならないと思っております。Bibliography欄もこれまでご担当いただきました先生方のお蔭で、集められた論文数も8000報にもなろうとしております。この財産をさらに使いやすくすべく、現在ご担当の受田先生からは検索可能なデータベース化するアイデアをご提案いただいております。今後とも役に立つ情報を掲載して行きたいと存じますので、会員の皆様には、ご要望などがありましたら編集委員会に是非お知らせください。編集委員一同、今後も努力して新しい企画なども設けて行きたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。